

新学習指導要領に対応した学習評価 (小学校 図画工作科)

文化庁 参事官 (芸術文化担当) 付 教科調査官
文部科学省 初等中等教育局 教育課程課教科調査官
小林 恭代

目次

はじめに

1. 内容のまとめりごとの評価規準

2. 学習評価の進め方

(1) 題材の評価規準

(2) 指導と評価の計画

(3) 授業の実施と、評価の総括

3. 評価方法等の工夫

おわりに



「学習評価の在り方ハンドブック」
小・中学校編 令和元年 6月
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/gakushuhyouka_R01061301.pdf



「指導と評価の一体化」のための学習評価に
関する参考資料（小学校図画工作）
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_zugak.pdf

はじめに

学習評価の改善の基本方針

学校における働き方改革が喫緊の課題となっていることも踏まえ、次の基本的な考え方に立って、学習評価を真に意味のあるものとすることが重要。

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直し
していくこと

はじめに

各教科における評価の基本構造

学習指導要領に
示す目標や内容

知識及び技能

思考力, 判断力,
表現力等

学びに向かう力,
人間性等

観点別学習状況
評価の各観点

- ・ 観点ごとに評価し、児童生徒の学習状況を分析的に捉えるもの
- ・ 観点ごとにA B Cの3段階で評価

知識・技能

思考・判断・
表現

感性, 思いやり
など

主体的に学習に
取り組む態度

評 定

- ・ 観点別学習状況の評価の結果を総括するもの。
- ・ 小学校は3段階。小学校低学年は行わない

個人内評価

- ・ 観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童生徒一人一人のよい点や可能性, 進歩の状況について評価するもの。

- ・ 各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- ・ したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。

1. 内容のまとめりごとの評価規準

2 内容

資質・能力で整理
→そのまま目標と
なりうる

A表現 (1) ア, イ
思考力,判断力,表現力等
(発想や構想)

〔共通事項〕(1) ア
知識

〔共通事項〕(1) イ
思考力,判断力,表現力等

A表現 (2) ア, イ
技能

B鑑賞 (1) ア
思考力,判断力,表現力等
(鑑賞)

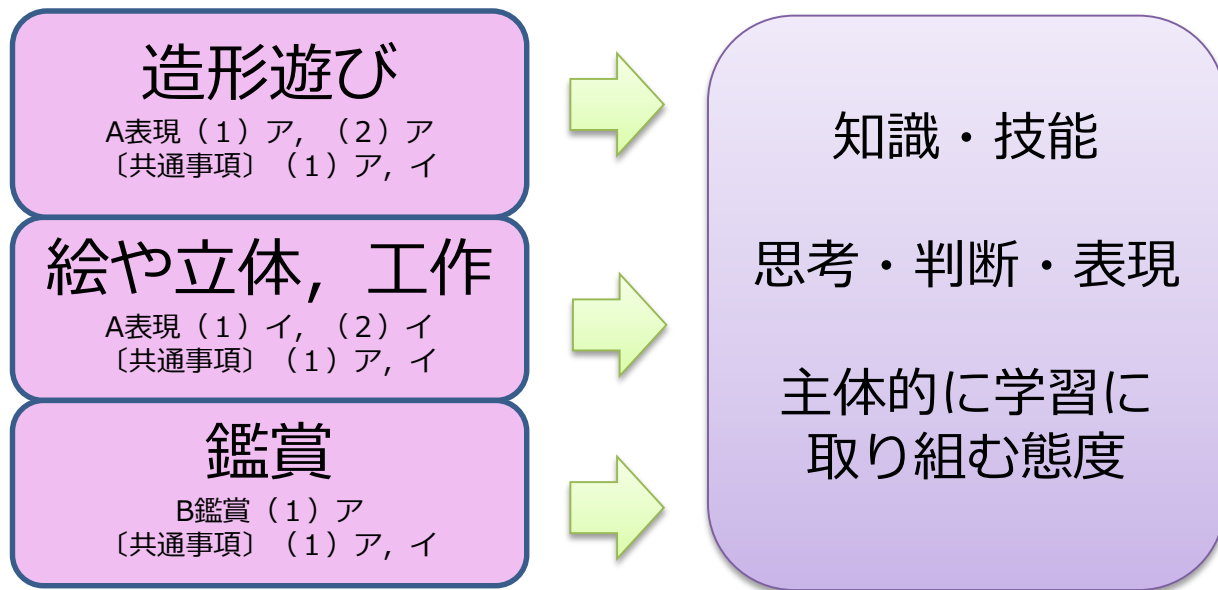


1. 内容のまとめりごとの評価規準

「内容のまとめりごとの評価規準」作成の手順

- ①各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。
- ②「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

<図画工作科の内容のまとめり> <内容のまとめりごとの評価規準>



1. 内容のまとめりごとの評価規準

① 各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。

「A表現」

(1)表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付くことや、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えること。

「思考力,判断力,表現力等」に関する内容

(例) 図画工作
第1学年及び第2学年
「造形遊び」

「A表現」

(2)表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 造形遊びをする活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくること。

「知識及び技能」のうち「技能」に関する内容

〔共通事項〕(1)ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと

「知識及び技能」のうち「知識」に関する内容

〔共通事項〕(1)イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと

「思考力,判断力,表現力等」に関する内容

1. 内容のまとめりごとの評価規準

② 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

(例) 図画工作
第1学年及び第2学年
「造形遊び」

知識・技能

- ・自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付**いている**。
- ・身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつく**っている**。

文頭の「造形遊びをする活動を通して」は、内容のまとめりを示すものなので削除

「思い付くことや」を「思い付き」とする

〔共通事項〕(1) イの文末を「～もちながら」とし、続けて「A表現」(1) アを示す

文末を～しているとする

思考・判断
・表現

形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考**えている**。

「表現したり鑑賞したりする学習活動」を「表現する学習活動」とする

主体的に
学習に取り
組む態度

つくりだす喜びを味わい楽しく表現する学習活動に取り組**もうとしている**。

当該学年の「評価の観点の趣旨」を踏まえて作成

2. 学習評価の進め方

1 題材の目標を作成する

2 題材の評価規準を作成する

3 「指導と評価の計画」を作成する

授業を行う

4 観点ごとに総括する

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 児童の実態、前題材までの学習状況等を踏まえて作成する。
- 1, 2を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料（児童の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。
- 3に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげる。
- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A, B, C）を行う。

2. 学習評価の進め方（1）題材の評価規準

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を、
年間を見通してバランスよく評価

題材の評価規準設定に際して

重点を置く観点がある

題材の内容，時間数，
年間指導計画との
関連を踏まえて考える

(例) 「技能」を働かせる場面が多くあり，
「技能」の育成が重要な学習活動
→ 「技能」に重点を置いた評価を行う

児童の学習状況を適切に把握し指導に生かすことで，
資質・能力の育成につなげることができる

観点の重点化をせず評価

2. 学習評価の進め方（1）題材の評価規準

内容を題材に即して具体的に示すことも考えられる

参考資料 事例2
「ひらいたはこから」
第1学年及び第2学年
「絵や立体、工作」

知識・技能

- ・自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付**いている**。
- ・カラーペンやクレヨン、パスなどに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表**している**。



思考・判断 ・表現

形や色などを基に、自分のイメージをもち、開いた箱を見て想像した**こと**から表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて**考**えている。

主体的に 学習に取り 組む態度

つくりだす喜びを味わい楽しく開いた箱を見て想像した**こと**を絵に表す学習活動に取り組**もう**としている。

2. 学習評価の進め方（2）指導と評価の計画

児童の学習状況を把握

指導に生かす評価

記録に残す評価



「努力を要する」状況



学習活動の早い段階で指導に生かす評価を行い、
「努力を要する」児童に対して指導



資質・能力が育成される



2. 学習評価の進め方（2）指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	評価の観点, 評価方法				
		知 技		思		態
		知識	技能	発想や 構想	鑑賞	
1	・ 作品を飾りたい場所の様子から、 どんな花を表していきたいか考 え、材料の和紙を絵の具で染め る。		○			◎ 観察 対話 作品 作品カード ワーク シート
2						
3	・ 染めた和紙の色や質感を生かし て飾りたい場所に合う花をどの ように表すかを考えて表す。			○		
4				◎ 観察 対話		
5	・ 場所に合う表したい花になるよ うに表し方を工夫して表す。	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品			
6	・ 友人と互いの作品を見合い、よ さや表したいこと、いろいろな 表し方について感じ取り、見方 や感じ方を広げる。			◎ 観察 対話 作品 作品カード ワーク シート		

参考資料 事例3
「花に心をこめて」
第3学年及び第4学年
「絵や立体, 工作」「鑑賞」



2. 学習評価の進め方（3）授業の実施と、評価の総括

学習状況を捉える



活動に取り組む様子 発話 作品
ワークシート 児童との対話など

「おおむね満足できる」状況としてどのような姿
が考えられるのかを具体的に予測しておく

例「思考・判断・表現」

「紙の形の全体や部分を何かに見立てたり、その形から想像したりして表したいことを見付けている」

「かいて生まれた形や色などからさらに想像している」

「クレヨンやパスの色を選びながら、表したいことをどのように表そうか考えている」

参考資料 事例2
「ひらいたはこから」
第1学年及び第2学年
「絵や立体、工作」



2. 学習評価の進め方（3）授業の実施と、評価の総括

「知識」

評価の観点
の趣旨

対象や事象を捉える造形的な視点について
自分の感覚や行為を通して理解している

視覚や触覚などの**感覚**，様々な**行為や活動**を通して，形や色などの造形的な特徴を理解していく



表現したり鑑賞したりするとき，形や色などの造形的な特徴に着目しながら活動するようになっていく

「知識」を活用して「思考力,判断力,
表現力等」「技能」を働かせる



2. 学習評価の進め方（3）授業の実施と、評価の総括

「知識」



形や色に着目
している

参考資料 事例2
「ひらいたはこから」
第1学年及び第2学年
「絵や立体、工作」

開いた箱全体の形から想像して表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしている

2. 学習評価の進め方（3）授業の実施と、評価の総括

「技能」

評価の観点
の趣旨

材料や用具を使い、表し方などを工夫して、
創造的につくったり表したりしている。

「技能」は、一定の手順や段階を追って身に付くだけでなく、
変化する状況や課題に応じて**主体的に活用**する中で身に付く

豊かな思いに基づいた「思考力、判断力、表現力等」とともに働い
ていくもの

児童の表したい思いを
大切にして指導

○材料や用具を扱う児童の具体的な様子を捉える

○作品は全体の印象だけではなく部分にも着目する

2. 学習評価の進め方（3）授業の実施と、評価の総括

「思考・判断・表現」

評価の観点
の趣旨

形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりしている。

参考資料 事例1
「のこぎりザクザク生まれる形」
第3学年及び第4学年
「絵や立体、工作」

- ・木を切ったり組み合わせたりしながら、感じたり想像したりして表したいことを見付けている
- ・木片の形や色などを生かしながらどのように表すか考えている
- ・木片の形や色などの組み合わせによる感じを基にイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている

○活動に取り組む様子や発話、作品、ワークシート
への記述などから捉える

○必要に応じて児童と対話する

何を感じているのか
何を考えているのか

2. 学習評価の進め方（3）授業の実施と、評価の総括

「主体的に学習に取り組む態度」

評価の観点
の趣旨

つくりだす喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている

自らの学習状況を把握

学習の進め方について試行錯誤する

自らの学習を調整しながら、
学ぼうとしているかどうか

「知識・技能」
「思考・判断・表現」
で捉えた姿と関連付けて
評価

粘り強い取組を行おうとする側面と
自らの学習を調整しようとする側面
を一体的に見ていく

学習活動全体を通して捉えた主体的に学習に
取り組む態度を踏まえて、記録に残す

2. 学習評価の進め方（3）授業の実施と、評価の総括

「努力を要する」状況の評価（C評価）と指導

表したいことを見付けられない…

どのように表せばよいか決められない…



この形から何が思い浮かぶかな？

次にどんなことが起こるのかな？

児童の視線の先や手の動きなどに目を向ける。
そこに至るまでに現れた姿と関連付ける。
問いかけて思いを聞いたりする。

児童の状況を捉える工夫

2. 学習評価の進め方（3）授業の実施と、評価の総括

「十分満足できる」状況の評価（A評価）と指導

表現している姿が、評価規準に照らして質的な高まりや深まりをもっている

→ある程度活動を進めるうちに
発展的に現れる

「十分満足できる」状況の例

「開いた紙から想像して表したいことを見付け、かいて生まれた形や色などを基に想像し、次々に表したいことを見付けている」

「開いた紙から想像して表したいことを見付け、折れ目や折れ目で区切られた部分を生かしたり、形や広さなどに合わせたりしてどのように表すかについて考えている」

参考資料 事例2
「ひらいたはこから」
第1学年及び第2学年
「絵や立体、工作」

2. 学習評価の進め方（3）授業の実施と、評価の総括

評価の総括

題材の評価規準に照らして
指導と評価の計画で明示した全員の学習状況を記録に残す評価を基に行う。

「知識・技能」

「知識」と「技能」

「思考・判断・表現」

「思考・判断・表現（発想や構想）」と「思考・判断・表現（鑑賞）」

「主体的に学習に取り組む態度」



年間指導計画上の題材の位置付けを考慮する。

○重点を置く観点がある

（例）「技能」を働かせる場面が多くあり、「技能」の育成が重要な学習活動

「知識」B「技能」A → 「知識・技能」A

○観点の重点化をせず評価… あらかじめ基準を決めておく

3. 評価方法等の工夫

<評価資料の収集や評価方法の工夫>

- フィールドマップや座席表

(観察や対話, つくりつつある活動の様子の観察)

- デジタルカメラ, タブレット型端末

- ワークシート

- ポートフォリオ

児童が 自らの学びを振り返って

次の学びに向かうことができるように



新学習指導要領に対応した学習評価 (小学校 図画工作科)

文化庁 参事官 (芸術文化担当) 付 教科調査官
文部科学省 初等中等教育局 教育課程課教科調査官
小林 恭代

ご静聴, ありがとうございました。